

2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

(2025年4月～2025年12月)

2026年2月6日

東洋合成工業株式会社（証券コード：4970）

2026年3月期 第3四半期 業績概要



- 先端半導体向け材料の新設備では、製品認定に向け稼働・出荷を増加
- 売上高は、先端半導体向け材料が堅調に推移し、304.0億円、前年比+5%の增收
- 営業利益は、先端半導体向け材料の新設備が稼働開始に伴い、減価償却費や人員増強等、19.3億円のコスト増加により、20.7億円（前年比△9.9億円、△32%）

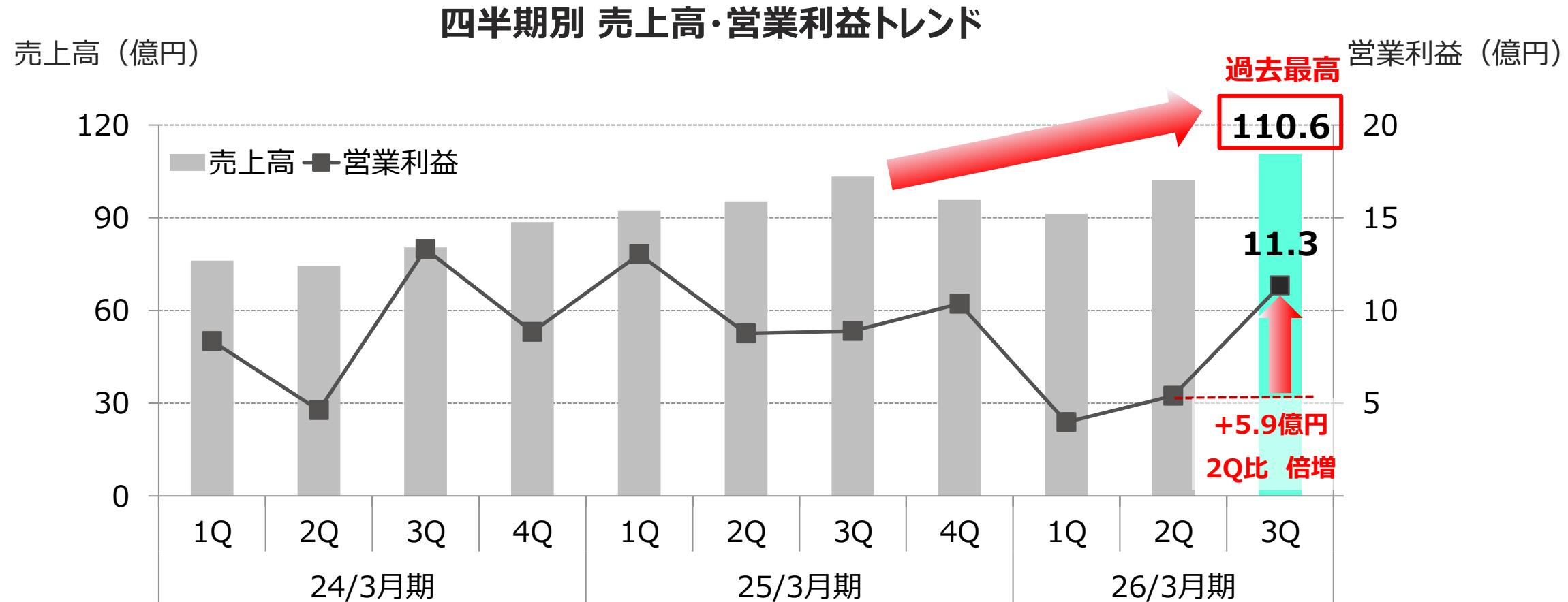
(億円)

	2025.3月期 3Q累計実績	2026.3月期 3Q累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	290.7	304.0	+13.3	+5%
営業利益	30.6	20.7	△ 9.9	△32%
経常利益	31.0	19.9	△ 11.1	△36%
四半期純利益	20.8	13.5	△ 7.2	△35%
期中平均為替レート	¥152/\$	¥149/\$		

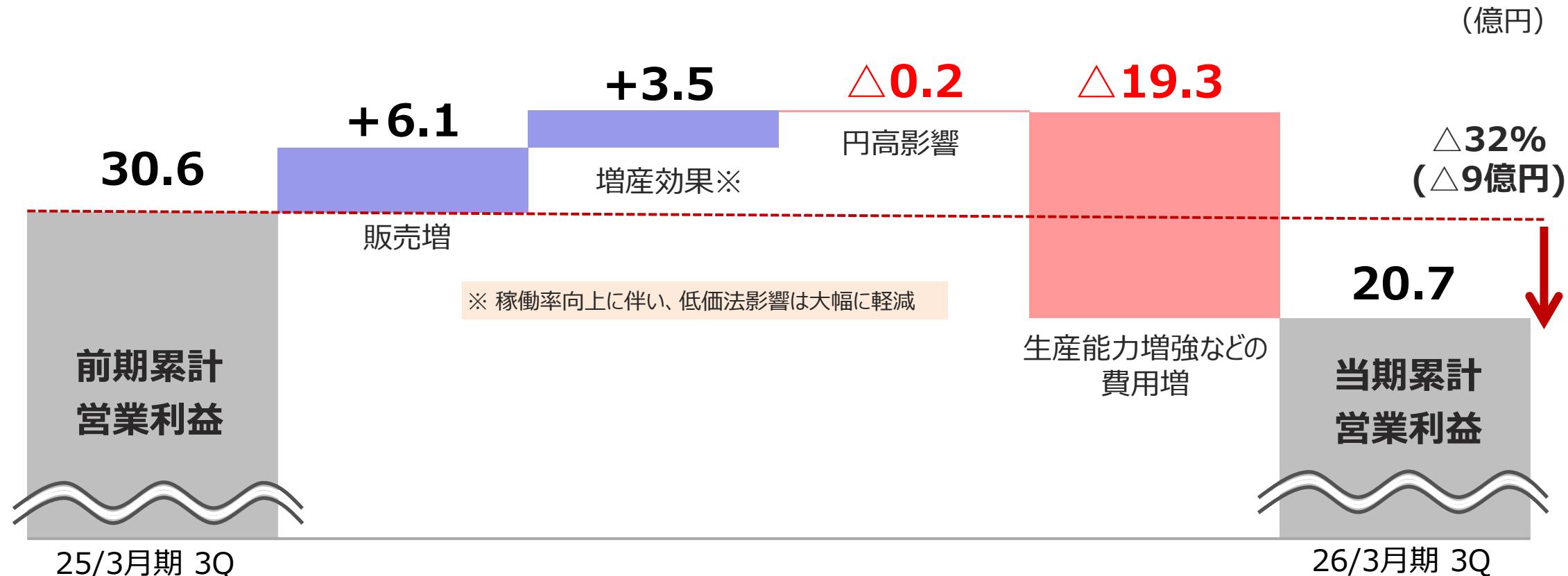
四半期別 売上高・営業利益トレンド

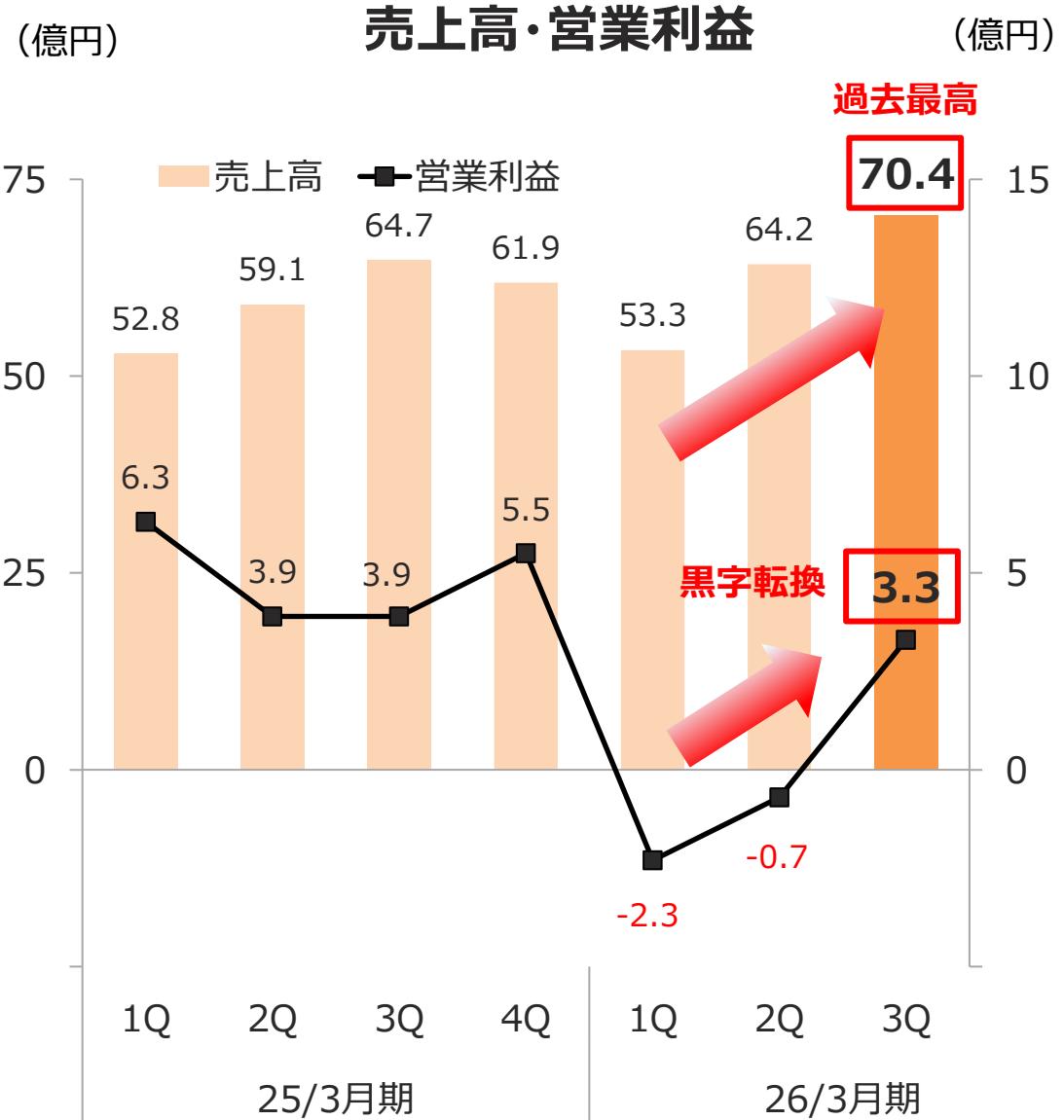


- 3Q単体の売上高は、先端半導体向け材料の販売が順調に増加し、過去最高
- 3Q単体の営業利益は、1Qを底に回復し11.3億円、2Q比では倍増 (+5.9億円)



- 先端半導体向け材料の出荷増加による販売増、増産効果により9.6億円の増益効果
- 減価償却費や人件費が先行して増加。さらに、生産情報システムの稼働開始も加わり、合計19.3億円の費用増
- 営業利益は、新設備稼働に伴う費用の吸収が徐々に進み、20.7億円を確保





(億円) **3Q累計売上高：188.0億円**

(前年比+11.3億円、+6%)

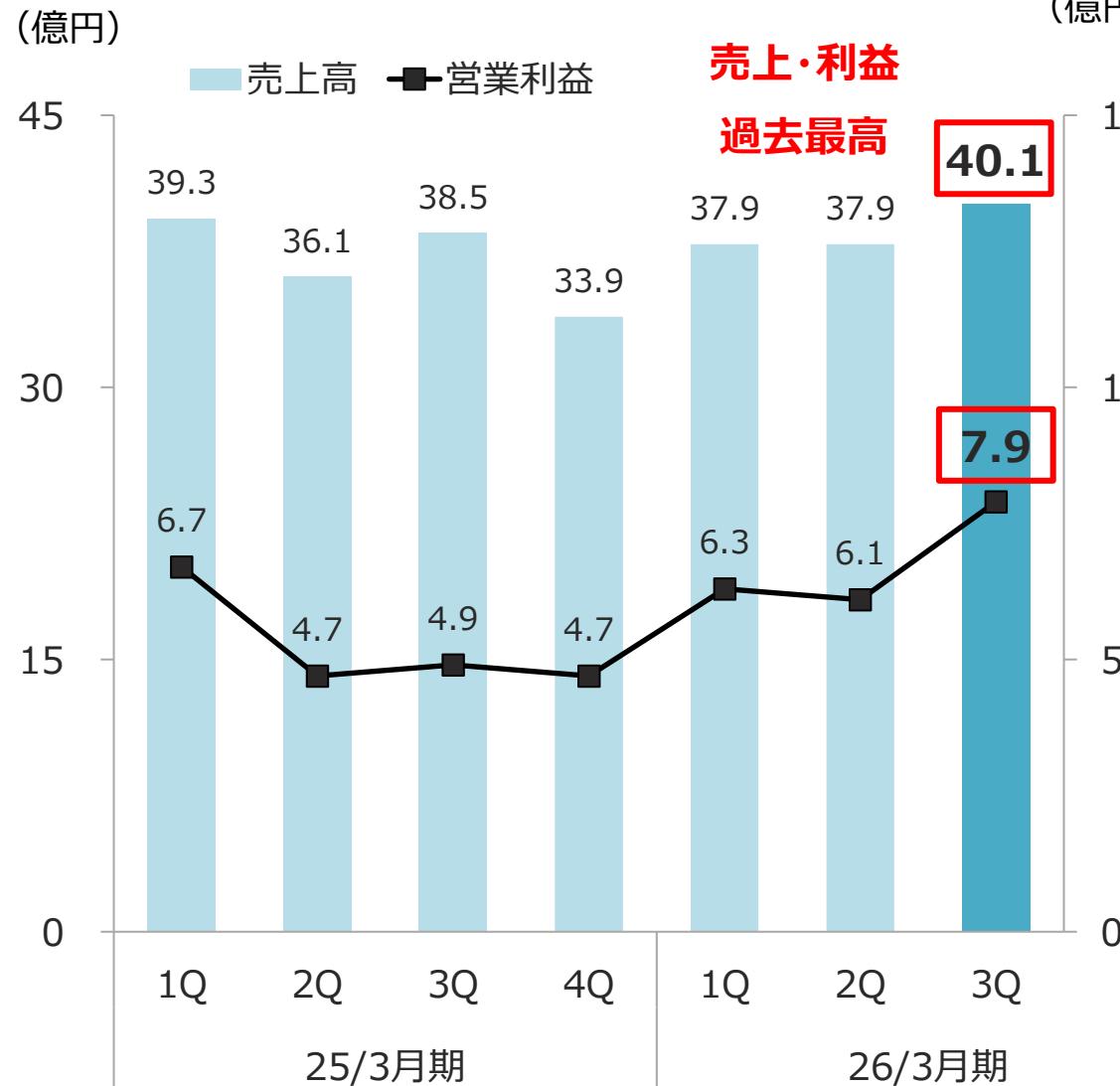
- 四半期売上高は過去最高
- AI用途の強い需要が継続し、先端フォトレジスト向け材料の売上は拡大
- ディスプレイ向け材料は、スマートフォンやTV用パネル生産が一定レベルに保たれたことで堅調に推移

3Q累計営業利益：0.3億円

(同 △13.9億円、△98%)

- 新設備では、製品認定に向け稼働・出荷を増加
- 先端材料の売上増加に伴い、固定費部分を吸収し、3Q累計、3Q単体ともに黒字転換
- 新設備や生産情報システムの稼働に伴う費用の吸収が徐々に進み、利益は回復継続

売上高・営業利益



（億円） 3Q累計売上高：116.0億円

（前年比+2.0億円、+2%）

- 四半期売上高は過去最高
- 高純度溶剤は、生成AIの普及拡大による需要増加により、売上は拡大
- 香料材料関連は、サプライチェーン上での在庫調整と為替影響により、売上減少
- タンクターミナル事業は、国内品の需要に加え、輸入品の保管需要も堅調。タンクの引き合いは旺盛な状況が継続

3Q累計営業利益：20.4億円

（ 同 +3.9億円、+24%）

- 四半期営業利益は、販売構成の変化もあり過去最高
- 累計でも高付加価値品の売上増に伴い増益

2026年3月期 第3四半期 損益計算書



- 売上高は、304.0億円の增收（前年比 +5%）
- 売上総利益は、新設備の稼働開始により減価償却費や人員増強等、19.3億円の費用増により前年比では減益だが、1Qを底に売上拡大し、費用が吸収され、利益は改善継続

	25/3月期 3Q	26/3月期 3Q	増減額	増減率	(億円)
売上高	290.7	304.0	+13.3	+5%	
売上原価	222.9	244.2	+21.3	+10%	
売上総利益	67.8	59.8	△ 7.9	△12%	[売上総利益率 23.3%→19.7%]
販売管理費	37.1	39.1	+1.9	+5%	
営業利益	30.6	20.7	△ 9.9	△32%	
営業外収益	2.0	1.8	△ 0.2	△14%	
営業外費用	1.7	2.6	+0.8	+51%	
経常利益	31.0	19.9	△ 11.1	△36%	
特別損益	△ 0.8	△ 0.2	+0.6		
税引前当期純利益	30.1	19.7	△ 10.4	△35%	
法人税等合計	9.3	6.1	△ 3.1	△34%	
当期純利益	20.8	13.5	△ 7.2	△35%	

2026年3月期 第3四半期 貸借対照表



- 販売拡大により、運転資金（＝売上債権 + 棚卸資産 - 仕入債務）は + 21.2 億円増加
- 利益増加により純資産は + 11.4 億円、自己資本比率は 39.9%（前年比 + 2.2pt）に改善
- 大型投資の完了を受け、借入金は △ 7.4 億円と減少し、財務の健全性が向上

(億円)

	25/3月末	25/12月末	増減額		25/3月末	25/12月末	増減額
流動資産	240.6	244.1	+3.4	負債	410.3	391.9	△ 18.3
現金預金	35.9	29.9	△ 6.0	仕入債務	56.7	58.0	+1.3
売上債権	73.7	89.0	+15.3	借入金	277.3	269.8	△ 7.4
棚卸資産	110.5	117.7	+7.2	その他	76.2	64.0	△ 12.2
その他	20.4	7.4	△ 13.0				
固定資産	417.9	407.6	△ 10.3	純資産	248.3	259.8	+11.4
有形固定資産	377.0	367.4	△ 9.6	株主資本	245.9	255.9	+10.0
無形固定資産	25.9	22.3	△ 3.5	その他	2.3	3.8	+1.4
投資・その他	15.0	17.8	+2.8				
資産合計	658.6	651.7	△ 6.8	負債・純資産合計	658.6	651.7	△ 6.8

2026年3月期 通期業績予想値と3Q進捗状況

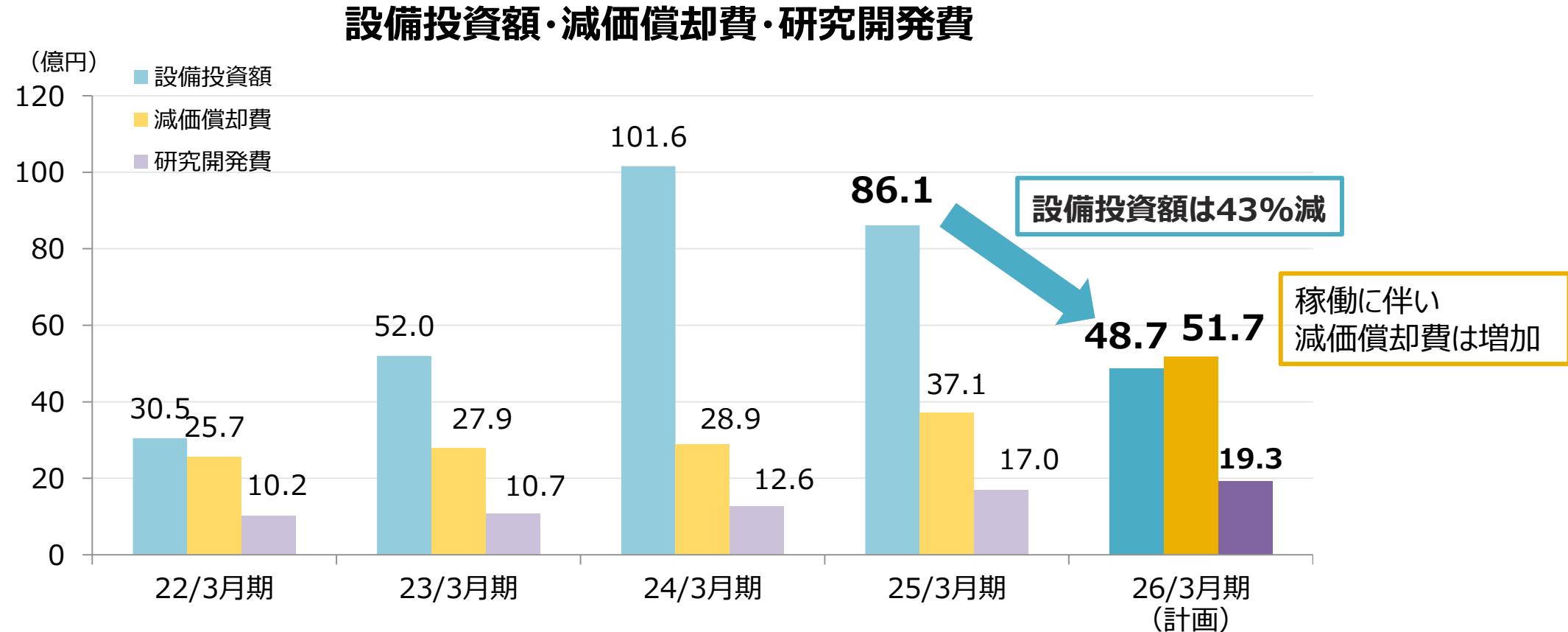


- 通期業績予想値に対する3Q進捗率は、売上高73%、営業利益74%、経常利益77%、純利益は68%
- 引き続き、期末に向けて高付加価値品の供給拡大を進め、業績の改善に努める

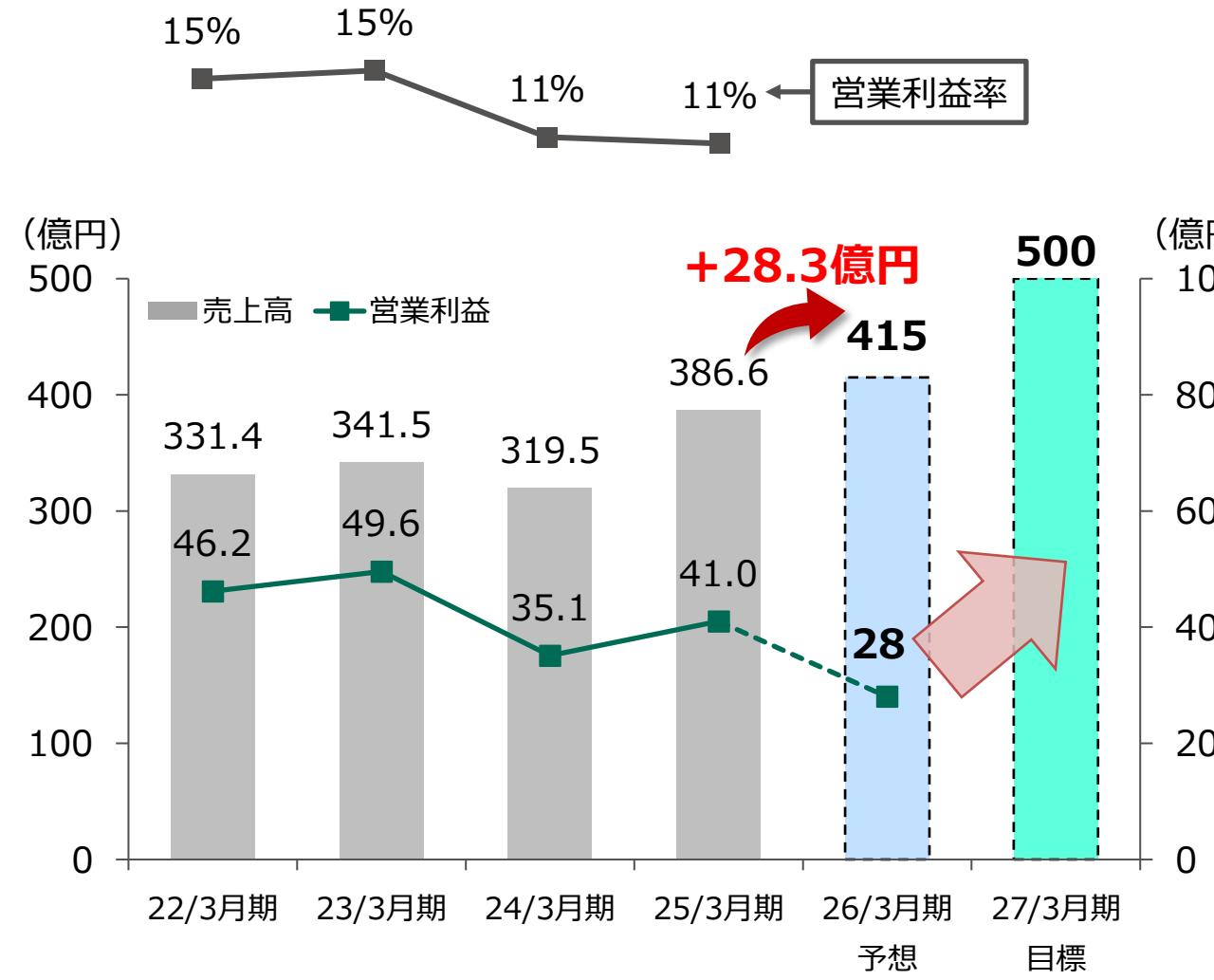
(億円)

	26/3月期 通期業績予想値 (25年11月7日公表)	26/3月期 3Q累計実績	進捗率
売上高	415.0	304.0	73%
営業利益	28.0	20.7	74%
経常利益	26.0	19.9	77%
四半期純利益	20.0	13.5	68%
為替レート (USD)	¥145/\$	¥149/\$	

- 設備投資・減価償却・研究開発費は期初計画から変更なし
- 大型設備投資がすべて完了し、今後新設備の活用により収益拡大を狙う



業績目標と進捗



Beyond500 (27/3月期)
売上高：500億円
営業利益：80億円 (営業利益率16%)

- 半導体市場は中長期的な成長が継続する見込み
- 供給拡大に向け、26年3月期から新規設備の量産稼働が開始
- 完成した設備を最大限活用し、高付加価値品の供給拡大を狙う
- 来期は中計最終年度として、稼働率向上と量産安定化により収益拡大を加速する

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。